

# これからの大学入試

— 学力を高める・適性を見極めること —

現段階での大学入試改革の動向をまとめると以下ようになります。

## [ 現高1生受験 ] 令和7年度大学入学共通テスト(令和6年度実施)について

従来の5教科7科目に教科「情報」(科目は情報I)を加えた6教科8科目が課される方向となりました。国語や数学②(数学II、数学B、数学C)の試験時間が10分間延長されるほか、現行課程の「地理歴史」「公民」が再編され、「地理総合」「歴史総合」「公共」が新たに設置されます。※既卒生対象の経過措置として、現行の教育課程科目の「地理歴史」「公民」「数学1」「数学2」「旧情報(仮)」の受験を可能とし、必要に応じて得点調整を行うことが決まっています。

「情報I」について各国立大は、地域間の教育環境の差異や公平性を考慮しつつ、2022年度中に、国立大学協会(以下、国大協)の方針に基づいて試験内容を決める見通しとなっています。

## 大学個別入試 ～国大協「高度な記述式試験の実施」～

国大協は「各大学の受け入れ方針に基づき作題し、全ての受験生に個別試験で論理的な思考力・判断力・表現力を評価する高度な記述式試験を課す」としています。ここで言う“高度な記述式試験”とは、「複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立論し、さらにその過程を表現する能力を評価できる問題」であるとしています。また、すでに記述式試験を実施している大学であっても、上記のような能力を評価するための作問改善を求める方針を示しました。このほか私立大学でも、こうした流れの中で出題内容の大幅な変更を行う大学があることが予想されます。

## 英語力の重視 ～英語・検定試験の利用～

英検をはじめとする英語資格・検定試験のスコアを「出願要件・加点・英語個別試験の得点換算」として利用する受験方式が増加しています。特定の大学・学部に関して、スコア次第で、受験戦略に大きな影響力を持つ場合があります。

## 多面的・総合的な人物評価 ～学校推薦型選抜・総合型選抜～

各大学はそれぞれの入学者受入方針に応じて、調査書(内申書)等の出願書類に加えて、小論文や面接、プレゼンテーションなど多様な評価方法を活用し、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」などの丁寧な入学者選抜の取り組みを加速・拡大させる方向にあります。また、一定の学力を担保するため、大学入学共通テストを課す大学も増加しました。

## 信学会グリーンクラスの取り組み

大学入試全体の流れとしては多様化が進み、受験生の学力・個性・資質と大学との「マッチング」という性格が強くなりました。早い段階から自らの能力と展望を見極めつつ、志望大学や入試方式を吟味することが重要となります。

また、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」においても一定の学力を求め、国立大個別入試では、「高度な記述力が要求される」方針となっています。科目ごとの確かな「知識・技能」と論理的な「思考力・判断力・表現力」の養成を通じた学力向上が、一層重要となります。

これまで信学会グリーンクラスは、日々の対面での講義に加え、質問対応・添削指導・入試面接練習・個別面談など、多岐にわたる学習指導を通じて、志望大学合格を総合的にサポートしてきました。これからも、「大学入試改革に対応すること」「生徒一人ひとりの思いに寄り添うこと」「ともに受験戦略を作り上げ、綿密に研究されたハイレベルな指導を行うこと」で、第一志望合格を全力で後押ししていきます。

### 大学入試改革のスケジュール

年度	2022	2023	2024
大学入学共通テスト	令和5年度共通テスト	令和6年度共通テスト	令和7年度共通テスト
関連事項	新学年指導要領対象の高校生が入学		新学習要領下の新教科・科目で実施
今後のスケジュール(予定)	令和4年秋冬頃～年度中	令和5年6月頃	令和6年6月頃
	各教科・科目の問題作成の方向性(地理歴史、公民、数学、情報の試作問題を含む)の公表(大学入試センターより)	「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び問題作成方針」の公表(文部科学省より)	
	大学入学共通テスト利用教科・科目の予告(各大学より)	「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び問題作成方針」の公表(大学入試センターより)※経過措置を含めた出題方法、科目選択の方法など	「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」の公表(大学入試センターより)